月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.142



完全フルアレンジアルバム

『英雄伝説 黎の軌跡 SUPER ULTIMATE』レビュー

怪盗グリムキャッツを確保せよ！

も～っと集まれ！ファルコム学園

メインストーリーがついに完結！

『英雄伝説 暁の軌跡』

ファルコムニュース

英雄伝説 零の軌跡

午後の紅茶にお砂糖を

ワイスマンの呪縛から解き放たれたヨシュア
最後の戦いが今、始まる!

『英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～』



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

★世間を騒がす義賊の正体に迫る!★



グラマラスな猫



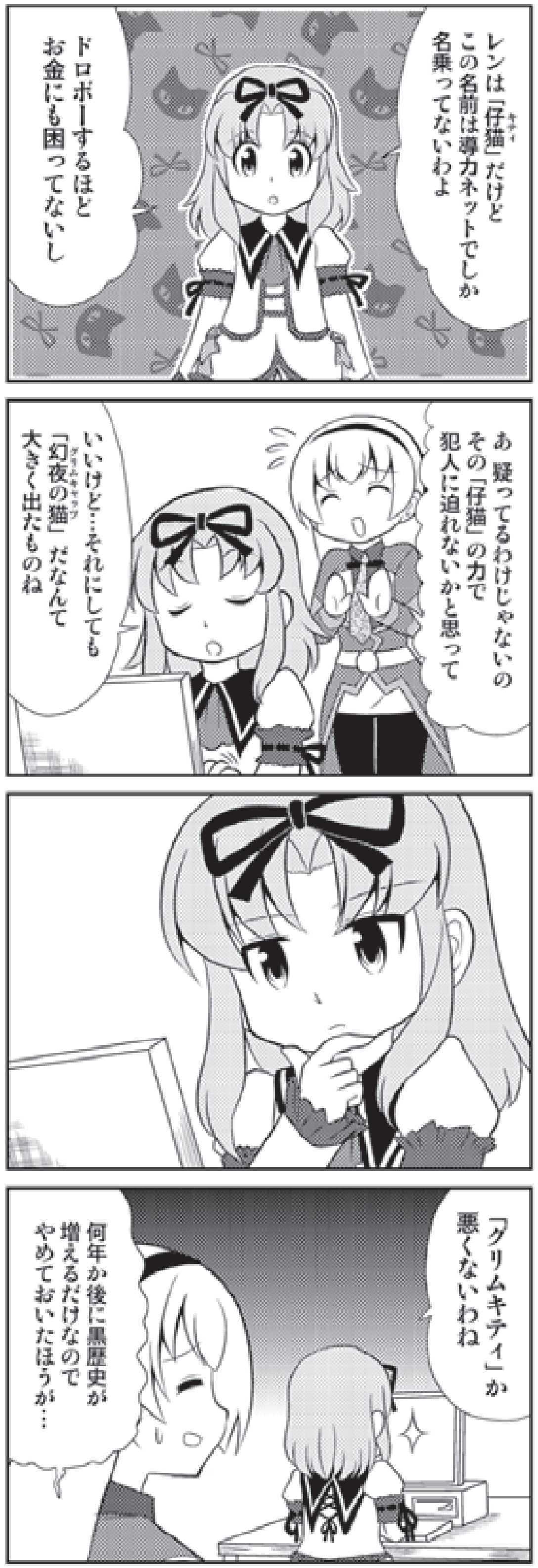
黒猫のアリバイ



名探偵アリオス



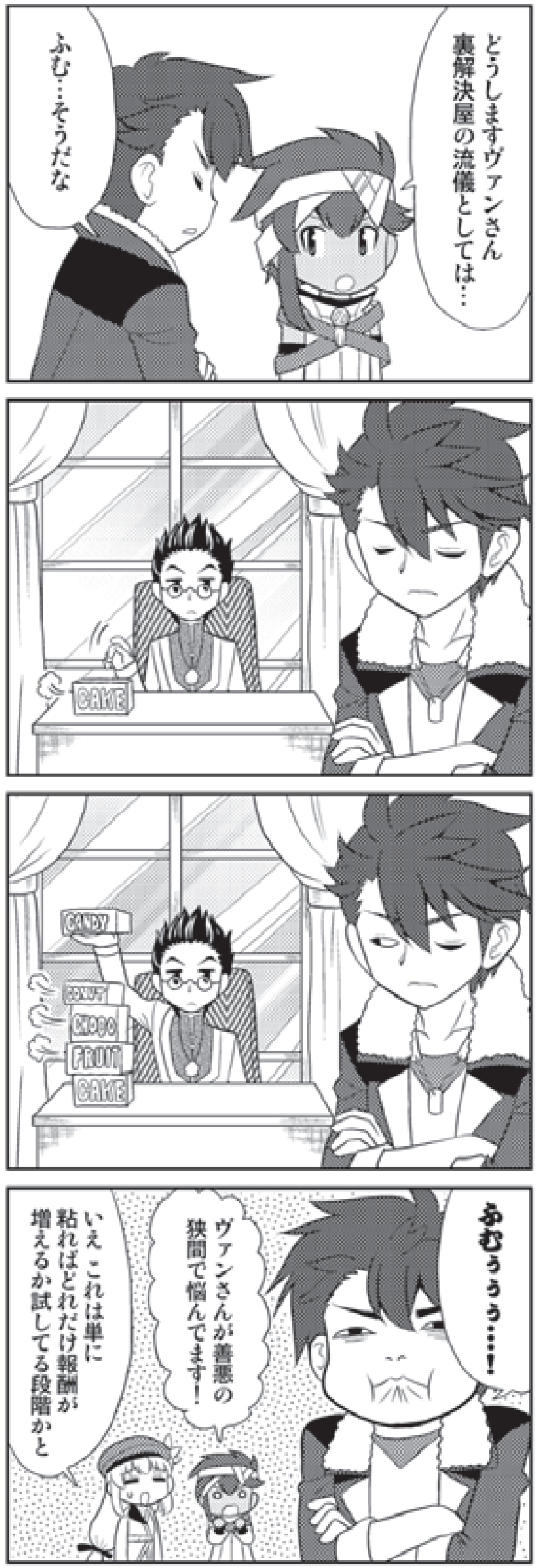
仔猫対幻夜の猫



塩さんの宝物



裏解決屋の交渉術



グリムキャッツの正体



ニブすぎる助手



ダルク先生の流儀



程よい距離感



自然な監視



役割分担



裏切り者



盗まれたもの




『英雄伝説 閃の軌跡』のアリサたちが魔法少女に!?
脚本家・山下憲一（TV アニメ『みんな集まれ！ファルコム学園』）と漫画家・さがら梨々（コミック『閃の軌跡』）の強力タッグが贈るシナリオブックが登場！　平穏な日常に突如現れた怪物。その時、アリサのキーホルダーが不思議な光に包まれて……!?
あなたにお届け!
愛と希望の流れ星!
魔法少女
まじかる☆アリサ
決定稿
著：山下憲一
イラスト：さがら梨々
原作：日本ファルコム
好評発売中!
判型：A5正寸／ページ数：160／定価：1,300円（税別）／ISBN978-4-8021-3131-5
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©KENICHI YAMASHITA,RIRI SAGARA 2018 ©2018 FIELD-Y
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks


穏やかで騒がしい生活が戻ってきたファルコム学園。
徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースⅨ」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！
待望の第2巻だよ！
も〜っと集まれ!
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体 900 円+税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©DAISUKE ARAKUBO ©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks

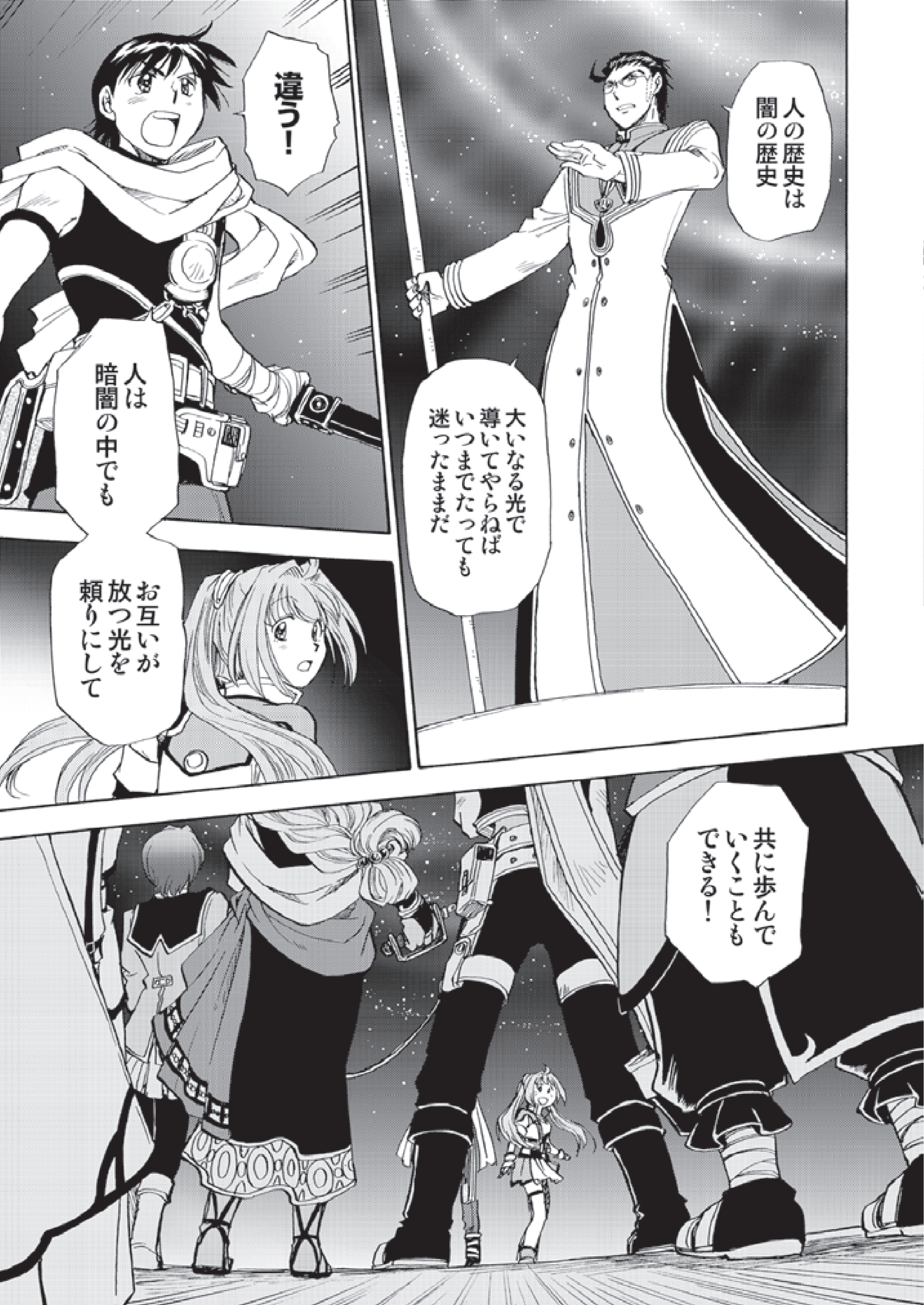

ふっ
ヨ…
たっ
空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画　啄木鳥しんき
原作　日本ファルコム


ヨシュア…
ごめん
エステル
つらい思いを
させてしまったね
ば…
馬鹿な
あの状態から
意志を取り戻せる
わけが……


おまえ
肩の聖痕はどうしたのだ!?
あなたが僕に刻んだ聖痕はもうない
たった今砕け散ったからね
まさか…そんなことどうやって
聖痕のある一点に暗示の楔を打ち込んでもらったんだ
そこにとてつもない負荷がかかった時に
聖痕が崩壊するような自己暗示を
暗示…


再び僕を操ったあなたが何をやらせるだろうか
その一点を予想して
そこにすべてを賭けてみた
あなたが僕が最も恐れることを
僕自身の手で行わせる可能性に
僕のピンチは君が救ってくれるって


そしてあなたはその通りに命じ
結果的に僕の聖痕は消え去った
僕はもうあなたの人形じゃない!
愚かな
私に従っていれば新たなる段階へ進化させてやったものを
そんなこと誰も望んでなんかいない!
自分の道は暗闇の中をあがきながら自分自身を見出して行くものなのだから!


人の歴史は闇の歴史
大いなる光で導いてやらねばいつまでたっても迷ったままだ
違う!
人は暗闇の中でも
お互いが放つ光を頼りにして
共に歩んでいくこともできる!


出来損ない共が
ならば見せてみるがいい
闇の中でも輝くおまえたちの光とやらが


それが今ここにいる僕たちの力！
僕たちはあなたの力には屈しない！


この巨いなる《輝く環》を前にして
どれだけの光を放つことができるのかを
次回に続く


リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する！
リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて！
英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～⑥
啄木鳥しんき
定価：1000円（本体909円+税） ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ 発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©Kitsutsuki Shinki
©FIELD-Y

▶ファルコムニュース◀
ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

TVアニメ『The Legend of Heroes 閃の軌跡 Northern War』が2023年1月放送開始！豪華追加キャストも発表！



「英雄伝説閃の軌跡」シリーズ初のアニメ化作品『The Legend of Heroes 閃の軌跡 Northern War』の放送が2023年1月に決定しました。
本作の舞台は七耀暦1205年、ゼムリア大陸北西部に位置するノーザンブリア自治州。この土地で生まれ育ち、“北の猟兵”としてノーザンブリアを守るために戦うヒロイン・ラヴィ（CV.小市眞琴）の視点で軌跡シリーズの物語が描かれるオリジナルストーリー。ラヴィと共に<帝国の英雄>の情報を求め内偵任務に就く猟兵に、マーティ（CV.中村悠一）、イセリア（CV.ブリドカットセーラ恵美）、タリオン（CV.小野友樹）が決定しています。

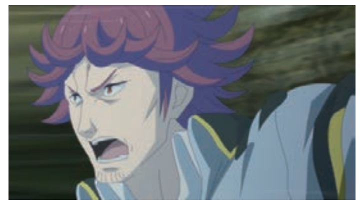
そしてこの度、ラヴィが所属する“北の猟兵”を率いるグラーク（CV.壌晴彦）と、グラークの右腕として活躍するジェイナ（CV.園崎未恵）、北の猟兵の幹部で、帝国との衝突も厭わない急進派のローガン（CV.近藤孝行）、ラヴィの同僚であるイバーノ（CV.福島潤）、タック（CV.木島隆一）が決定。さらに、ゲーム「閃の軌跡シリーズ」の主人公でもお馴染み、「帝国の英雄」と呼ばれるリィン（CV.内山昂輝）と、同じくゲームシリーズに登場するアルティナ(CV.水瀬いのり）がTVアニメにも登場することが明らかになりました。
今後、ラヴィたちノーザンブリアのキャラクターたちが、リィンやアルティナたち帝国の人間とどのように関わっていくのか、要注目です。

CAST&STAFF
原作：日本ファルコム
監督：佐藤英一
アニメーションストーリー考証：恵村まお
シリーズ構成：リョウガヒデキ／恵村まお
オリジナルキャラクターデザイン：原将治
キャラクターデザイン：大沢美奈
アニメーション制作：タツノコプロ

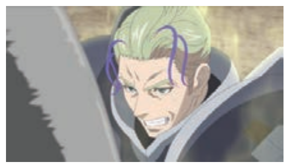


ラヴィアン・ウィンスレット：小市眞琴／マーティン・S・ロビンソン：中村悠一／イセリア・フロスト：ブリドカットセーラ恵美／タリオン・ドレイク：小野友樹／グラーク・グロマシュ：壌晴彦／ジェイナ・ストーム：園崎未恵／ローガン・ムガード：近藤孝行／イバーノ：福島潤／タック：木島隆一
リィン・シュバルツァー：内山昂輝／アルティナ・オライオン：水瀬いのり

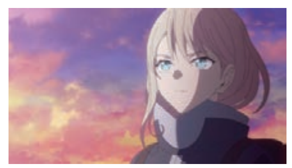












■**公式サイト**：https://sen-anime.jp/
■**公式Twitter**：@sen_animejp

『英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN-』がくじ引き堂に登場！他では手に入らない珠玉のインテリアアイテムをGETしよう!!



オンラインくじサービス「くじ引き堂」で、『英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN-』のオリジナル商品が手に入る「英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ -CRIMSON SiN- オンラインくじ」が12月1日（木）17時より販売スタート。商品は、『黎の軌跡Ⅱ』や前作『黎の軌跡』の豪華ビジュアル群を用いたオリジナルグッズが盛りだくさん。魅力的なキャラクターによる、お洒落なインテリアアイテムや、かわいらしい公式ちびキャライラストを用いた商品など、“キセキ”が詰まったアイテムが目白押し！
また期間中に“リツイートキャンペーン”として、くじ引き堂の公式アカウントをフォロー＆リツイートすると、抽選で2名様に「OPムービー缶バッジセット」をプレゼント。この機会をお見逃しなく!!

■**販売期間**：2022年12月1日（木）17:00～2023年1月5日（木）16:59
■**販売価格**：1回 770円（税込）
※別途発送手数料が掛かります。
■**購入ページ**：https://kujibikido.com/lp/kuronokiseki2/

■商品ラインナップ
S賞：選べる！ A3パブミラー（全5種）
A賞：ちびキャラダイカットクッション（全8種）
B賞：A3クリアポスター（全11種）
C賞：OPムービー缶バッジ（全16種）
※各賞全種のうち、いずれか1つが当たります。

■Twitterフォロー&リツイートキャンペーン
期間中に「くじ引き堂」の公式Twitterアカウント（@kujibikido）をフォローおよび対象ツイートをリツイートした方の中から抽選で2名様に「C賞 OPムービー缶バッジ全16種セット」をプレゼント。

■おまけキャンペーン1
12月1日（木）17:00～12月29日（木）16:59の間に【10連セット】を購入すると、「オクト=ゲネシス アクリルチャーム（全8種）」をランダムで1個もれなくプレゼント。
※期間で貰える絵柄は異なります。

■【特典期間】
■オクト=ゲネシス アクリルチャーム（1～4）
12月1日（木）17:00～12月15日（木）16:59
■オクト=ゲネシス アクリルチャーム（5～8）
12月15日（木）17:00～12月29日（木）16:59

■おまけキャンペーン2
12月29日（木）17:00～1月5日（木）16:59の間に【10連セット】を購入すると、「キャラクターサイン色紙（全3種）」をランダムで1枚もれなくプレゼント。

※全3種。ランダムでの配布となります。

■【特典期間】
キャラクターサイン色紙（ジュディス、ニナ、ドミニク）
12月29日（木）17:00～1月5日（木）16:59

■「くじ引き堂」公式サイト
https://kujibikido.com/
■「くじ引き堂」公式Twitterアカウント
https://twitter.com/kujibikido





『閃の軌跡』シリーズより、旧Ⅶ組メンバーの新商品を発売！

新規描き起こしミニキャラとグラフアートイラストのグッズがグラフアートショップに登場。今回のテーマは私服です!!

■WEB開封式

通販サイトeeo Storeでご購入の場合、ブラインド商品を単品でご購入いただくことができるWEB開封式を実施。その場でブラインド商品の中身を確認することができます。

■特典情報

『閃の軌跡』新商品を2,200円(税込)お買い上げごとに、ポストカードをランダムで1枚プレゼント。なくなり次第終了となるのでお見逃しなく！



店頭販売：12月17日（土）～
GraffArt Shop 池袋本店･なんば･名古屋

通販：11月17日（木）～
https://eeo.today/store/101/title/search/product?parent_title_id=400

「軌跡シリーズ」フィギュア企画第5弾「レン･ブライト」の原型公開！



フィギュアメーカー・コトブキヤが展開する「軌跡シリーズ」フィギュア企画より、第5弾となる「レン・ブライト」の原型画像が公開されました。これまでのシリーズ同様、「閃の軌跡Ⅳ」や「創の軌跡」登場したレンの姿をエレガントに立体化。まだ幼さを残す華奢な体躯と、巨大な鎌の対比など、レン・ブライトの魅力を余すことなく再現しています。
フィギュア企画の続報は、今後も「コトブキヤ」公式Twitter、ふぃぎゅあブログ等で公開されていく予定ですので、お楽しみに！

コトブキヤふぃぎゅあブログ
https://www.kotobukiya.co.jp/figure-blog/figure-blog-295727/

11月の
新／衣装替えキャラクターをチェック！



Xmas・トワ

クリスマスということで、可愛いサンタクロースをイメージした衣装を披露するかと思ったトワだったが、彼女が今回チョイスしたのは、雪の意匠をあしらった清楚なドレス。可愛らしさと大人っぽさを両立した、トワらしい一着となっている。

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡
アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
祝！　11月はついにメインストーリーが堂々完結！ ナハト、クロエたちの活躍を見逃すな！
そして衣装替えには、トワが一足早くクリスマスにちなんだ衣装を披露！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/
公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

メインストーリー エピローグ「暁の向こう」を実装！

何気なく過ごしている日々の裏側で大切なモノを守るために戦う“英雄”たちがいた。
激動の歴史の狭間で、彼らは確かに守り抜いたのだ。
──あれから１年。
いつもと変わらぬ夜明けとともに、彼らの日常が始まる。









※画像は開発中のものです。　※ 上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

ロイドたち四人が出動し、支援課ビルにはダドリーと、その幼い女の子――キーアだけが残された。
ずっと寝ているツァイトもいるが。
キーアの大きな瞳に、じっと見つめられる。
「えへへ、こんにちは！」
「うむ……留守番か。大変だな」
「キーアはへいきだよ」
「いつも、こうなのか？」
「ん～、だいたいこんなかんじ。ロイドたち忙しいから」
「そうだな……」
やはり子どもを育てる環境としては不適切ではないか――と感じるダドリーだが、それでも、当のキーア本人がロイドたちの元に留まることを望んでいるらしい。
（……そういえば、バニングス兄弟も似たような境遇だったか。どんな場所が幸せかは人それぞれかもしれないな）

英雄伝説 零の軌跡 ～午後の紅茶にお砂糖を～

第8回

特務支援課メンバーが過ごす
クロスベル自治州のゆる～い(?)日常！



エレボニア帝国とカルバード共和国という大国に挟まれながらも、自治州として独立していたクロスベルを舞台とした『零の軌跡』、『碧の軌跡』シリーズ。続編となる『閃の軌跡』、『創の軌跡』においても激動の中にあり、様々な壁が立ち塞がっていたが、怯むことなく立ち向かっていったのがロイド・バニングス率いる特務支援課メンバーだ。そんな特務支援課メンバーが、もしかしたら過ごしていたかもしれない日常を描く、魅力たっぷりの一冊をご堪能あれ！

製品情報
好評発売中
著　　：むらさきゆきや
イラスト：窪茶
定　価：1,210円(税込)

キーアのことを見つめていると、『?』を浮かべて首をかしげられた。
「どうしたの？　ダドリー、今日もぶすっとしてるね」
「ぐっ……別にずふっとしているわけではない！　相変わらず年長者に対する礼儀がなっていないようだな」
「えへへ、なにかご用だった？」
ダドリーの抗議は、さらりと流された。
ぐぬぬっと歯がみするが、子どもの言うことだ。こらえておく。
「今日は、セルゲイさんに渡すものがあってな」
「かちょー？　おでかけしてるみたい。帰ってくるのは夕方かな」
「ふむ、本部だったか」
「うん」
子どもの世話は大変なばかりだろうと考えていたが、まるで受付のようだった。実は意外と役に立っているのかもしれない。
「セルゲイさんは、ご不在か。仕方がない……渡す物は机にでも置いておくことにしよう」
「うん、わかった！　かちょーに言っておくね！　じゃあ、キーアはお料理があるから」
「ん？　待て。お前がひとりで料理をするというのか？」
「うん！　かちょーが帰ってくる前に作らないとね！」

にこにこと笑顔でキーアが厨房に入る。
中を覗きこむと、いくつもの食材が作りかけで置いてあった。
そういえば、ロイドたちは料理中に支援要請を受けて出動したのだったか。
「んと、油物は後にしないと冷めちゃうから……先にスープかな」
キーアが包丁を手にする。
幼い彼女に、厨房の調理台は高すぎるようで、背筋を伸ばして身を乗り出すような格好で野菜を切りはじめた。
ダドリーはあわてて止めに入る。
「ま、待て……子どもが刃物を使うなど危ない」
「ほえ？　へいきだよ」
「すこしは言うことを聞かんか！」
「……でも、今のうちにやらないと、パーティーに間に合わないし」
「パーティーだと？」
「うん！　かちょーのお誕生日パーティーだよ」
「あいつら、勤務時間に……‼」
「料理したらダメだったの？」
「あ、いや……待機中に料理を禁止するという規則はないが、常識的に考えてだな……」

せいぜい、買ってきたケーキを食べるていどにするのが、普通ではないか？　まったく特務支援課は型破りだ。

キーアが大きな棚の上段へと手を伸ばす。指先をぷるぷるさせるが、届かないようだ。

「う～～～……」

「どうした？」

「お塩が切れちゃってるの。前に買っておいたのが、棚の上にあるんだけど……」

「これか？」

当然ながら、ダドリーにとっては、なんでもない高さだった。紙袋を取ってやる。

「うん、これ！　ありがとー、ダドリー!!」

「じゃあ、料理しちゃうね」

「まったく……子どものしつけ方について支援課（あいつら）にひと言、言っておかねばな……」

キーアが小さい体にもかかわらず、テキパキと準備を進めていく。

「バニングスたちが帰ってきてからにしたらどうだ？」

「だって、いつ帰ってくるかわからないし……」

たしかに、いなくなった犬を探すなんて、いつになるか。

ダドリーはこめかみを押さえて、ため息をついた。

「仕方ない……私も手伝おう」

「え？　ほんと!?」

「子どもが、ひとりで料理をするなど、危なっかしくて見ておれんのでな」

スーツを脱いで、シャツの袖をまくる。ロイドのエプロンを借りることにして前にかけた。

きらきらとキーアが瞳を輝かせる。

「ダドリー、やっさしぃーー!!」

たいへん不本意ながら、ダドリーは料理を手伝うことにした。

手を洗って準備を終える。

「はじめは、なにを作ればいい？」

「なにが得意なの？」

「と、得意な料理か……」

正直なところ、それほど慣れてはいないのだが、子どもの手前、そんなことは言えない。

「……どんなものでも任せるがいい」

背筋を冷や汗がつたった。

ん～、と考えてから、キーアがレシピを指さした。
「じゃあ、この《フレッシュサンド》を作ってもらえる？」
「うむ、これなら♪　あ、いや……なんでもない。まかせておくがいい」
思わず明るい声が出てしまった。とりつくろうように、ことさら重々しく答え、ぐいっと胸を張る。
キーアが笑顔を浮かべた。
「ありがと～‼」
期待に応えるべく調理をする。
ゆで卵を作るために、まずお湯を沸かす。その間に、きゅうりを刻んだ。
温めた卵をナイフで細かくし、きゅうり、マヨネーズ、塩、こしょうと混ぜ合わせる。
焼きあげたトーストに乗せ、ハムとレタスもはさみこむ。
完成だ。
「よし、上出来♪　あっ……う、うぉほん！　ふん、これでいいのか？」
また弾んだ声をあげてしまった。
すこしだけ頬が熱くなる。
くいっ、とメガネを直した。
キーアが手をたたく。

「わぁ～、美味しそう♪」
「ふ、ふふ……まあ、当然だな」
子ども相手ではあるが、褒められて悪い気はしないダドリーだった。
「お前のほうは、どうだ？」
「んと、キーアはね、《薬膳麻婆豆腐》ができたとこ」
「なっ⁉」
いつの間にか、キーアの手によって完成度の高い麻婆豆腐ができあがっていた。
濃い赤色と香辛料の匂いが食欲をそそる。
子どもの腕前とは思えない。
むしろ、素人のレベルではなかった。
「こ、これは……なんということだ……」
「えへへ、じゃあ、次はね――」
「どんなものでも任せてもらおう！」
「ほんと⁉　じゃあ、《匠風オムライス》を作ってね！」
「ただのオムライスではなく、匠風に仕上げろという事なのか…！？」
「あ、無理そう？」
「むむ……い、いや、もちろん大丈夫だ！」

「えへへ」

　ダドリーはレシピを見ながら頑張ってみたが、とき卵を薄く広げたり、崩さずに巻くのは本を読んだだけでは難しかった。

　ぐしゃぐしゃになる。

「うっ、いかん……メガネが曇って……」

「え……ダドリー、だいじょうぶ？」

「これは……その……」

　オムライスを目指した別の料理ができあがってしまった。

　失敗料理というやつだ。

「ん～と、どうしよう？　食べてみたら、意外と美味しいかも？」

「パーティに出す料理ではないな……仕方ない。これは、私が食べるとしよう」

「え、でも……」

「いいか、たとえ失敗しても、食べ物を粗末にするのはダメだ」

「わかった。じゃあ、ツァイトにあげようよ！」

「む……食べるだろうか？」

　ダドリーは充分に冷ましてから、ずっと寝ている白狼のところへ失敗オムライスを持っていった。



皿を持って現れたダドリーとキーアに、ツァイトが身体を起こす。
「グルル……」
「ツァイト～、ごはんだよ！」
「ガウッ」
「えへへ、〝美味しそうな匂いがする〟だってさ」
「まるで言葉がわかるみたいに言うのだな」
「わかるよ～」
「ふっ……そうか」
ダドリーはうなずいた。
子どもは夢があるものだな――と微笑ましい気持ちになる。
身を起こしたツァイトの前に皿を置いた。
ガフガフと食べはじめる。
「ツァイト、おいしい？」
キーアがにこにこしながら聞くと、白狼がひと声、鳴いた。
「ウォンッ！」
「へー、そうなんだ～。〝なかなか美味しい。この料理を作った者は才能がある〟だってさ！」
「あ、ああ……」

犬の食事を作る才能を褒められても、あまりうれしくなかった。
そもそも、失敗した料理だし。
ダドリーは、そっとため息をついた。

「よし、次こそ！」

そして、数分後――
キーアが気まずそうな顔をする。
「えっと……じゃあ、その《フライドフィッシュ》になれなかった料理は、コッペに」
「う、うむ……」
屋上へ行き、黒猫に失敗した魚料理を与えた。
「にやゃゃあ～‼」
「これは……喜んでいるのか？」
「にゃ～お」
食べ終えたコッペが、支援課ビルの裏へと消えた。
空になった皿と食べかすを片付けていると、すぐに猫が戻ってくる。
「にやぁ～～～お」
ころり、とダドリーの前に、黒色の石を落とした。

「なんだ？」
ゴロゴロゴロゴロ……とコッペが喉を鳴らす。
石を手に取った。
「もしかして、私に？　こ、これは《時》系統のクオーツか⁉　しかし、形は同じだが、なにか違うような……」
ふと思い出す——配備予定の試作品として見せられた新型エニグマのことを。
戦闘時の行動力を支援するクオーツに、似たようなものがあったはず。
「まさか、新型のクオーツなのか⁉」
「にゃおーん」
「この猫……何者だ⁉」
「にゃぁおお～ん」
コッペは満足そうに鳴き声をあげると、よく日の当たる屋上で、ころりと丸くなった。
ぬぬぬ、とダドリーはうなる。
（売られてもいないクオーツを入手してくるとは……もしや支援課の活躍の陰には、この猫の働きが⁉）
「……ふっ……まさかな。偶然だ。このクオーツは遺失物として届けておくとして……一応、猫のことは一課の書類に追記しておくか」

後日、引き取り手の現れなかった《行動力1》のクオーツは、ダドリーの手に戻り、配備されたばかりのエニグマⅡに装着されるのだった。

キーアの指示に従って、あれこれパーティーの準備をしていると、玄関のほうから声がした。
「こんにちはー」
「む？　来客のようだな」
ダドリーたちが厨房から顔を出すと、玄関口には警備隊の制服に身を包んだ少女の姿があった。
「わあい、ノエルだ～」
キーアが笑顔で迎える。
「こんにちは、キーアちゃん！」
「ふむ……君は、ノエル・シーカー曹長だったかな？」
問いかけると彼女は目を丸くした。

「あれ？　もしかして、捜査一課のダドリー捜査官でいらっしゃいますか⁉」
「ああ、そのとおりだ」
「ご苦労様です！　……って、ここ支援課ですよね？　なにをされてるんでしょうか？」
「見てわからんのか？」
　ダドリーはスーツを脱いで、エプロンを巻いている。
　ノエルが首をかしげた。
「ちょっとわからないです……どうして、一課の捜査官が、支援課でキーアちゃんと料理を？」
「……そうだな。どうしてだろうな？」
　ダドリーのほうが教えて欲しいくらいだ。
「ふふ、なかなか面白いことになっているみたいね」
　ノエルの後ろから、クールで理知的な女性が姿を見せた。
　やはり警備隊の制服を着ているが、左胸の階級章が将校であることを示している。
　今度はダドリーが目を丸くする番だった。
「ソーニャ・ベルツ副司令⁉」
「お邪魔してもいいかしら。アレックス・ダドリー捜査官？」
「警備隊の実質的なトップが、警察のいち部署である支援課に……まさか、なにか事件

が⁉」
「ふふ、そういうわけではないの」
「ロイドたちは支援要請で出動していますが……？」
「ええ、知ってるわ」
　ソーニャの言葉に、ノエルが説明を添える。
「あたしたち、警備隊本部の近くでロイドさんたちに会って、誘われたんです」
「セルゲイの誕生日パーティーをするらしいわね。しかも、サプライズなんですって？ふふ、楽しそうじゃない」
　警備隊副司令ソーニャ・ベルツが、らしからぬ少女のような笑みを浮かべた。
　おおっ、とノエルが驚いた顔をする。
　そういえば……とダドリーは思い出した。
（……セルゲイさんと、ソーニャ副司令は……ならば、私がとやかく言うことではないな）
　ひとつ、うなずく。
「わかりました。パーティー料理の準備中なので、お茶くらいしか出せませんが、中で待っていてください」
「ふふ、おかまいなく」
「あたしにも手伝わせてください！　美味しそうな匂いがしてますね。もうケーキは買っ

てあるんですか？」
「えへへっ、ケーキも作るんだよ」
「えっ、手作りなの⁉」
「うん！」
元気よく答えたキーアに、ダドリーは驚愕の声をあげる。
「おい待て、今からケーキ……だと⁉」
「そのほうが楽しそうだもん」
「しかし……」
「あら、大変そうね。私も手伝おうかしら？」
ソーニャがうれしそうに袖をまくる。
今度はノエルが声をあげた。
「ええっ⁉　副司令が⁉」
「あら……私だって、料理くらいできるわよ。まあ、ここ数年、ごぶさただけど」
そこに、さらに来客があった。
「あの……すみません……」
「む？」
もじもじと気後れした様子で、黒髪の美しい少女が姿を見せた。
ダドリーは我が目を疑う。
「なっ⁉　もしかして……リーシャ・マオ嬢か⁉」
劇団アルカンシェルの看板スターのひとりである。
リーシャが困ったような顔を浮かべた。
「やっぱり、ご迷惑なんじゃ……」
彼女の背を押すようにして、栗色の髪の少女が入ってくる。ウルスラ病院の看護師セシルだった。
「ふふ、ロイドが大丈夫って言ってたから平気よ」
華やかなふたりが来たら、部屋の空気まで変わったように感じられる。
リーシャが、ぺこりと頭をさげた。
「すみません……セシルさんから、ここでお祝いのパーティーをやるからとお誘いを受けまして……」
「うふふ、すこし前に、リーシャさんに助けてもらったことがありましたから」
はたはたとリーシャが左右に手を振る。
「いえ、そんな！　たまたまロイドさんたちと一緒にいただけです」
「だとしても、助けてもらいましたから。いつか、お礼をしたいとロイドと話してたところだったんです」

「あれは、むしろ私のほうが、ロイドさんにお礼を言いたいくらいで……」
　この調子だと、延々と同じことを繰り返しそうだ。
　ダドリーは割って入る。
「だいたい話はわかりました……つまり、リーシャ・マオ嬢も、セルゲイさんの誕生日パーティーに来たんですね？」
「はい。支援課のみなさんには、お世話になってますから、お祝いができたらいいな、と思いまして」
「なるほど……」
　プライベートでの参加であれば、ダドリーの立場から、どうこう言うべきではないだろう。
　セシルが確かめるように尋ねてくる。
「ロイドが誘っても大丈夫って言ってたし、きっとセルゲイさんも喜んでくれますよね？」
「まぁ、経緯はともかく……リーシャ・マオ嬢に来てもらったら、普通はよろこぶでしょう」
　セシルとリーシャが安堵したように表情をやわらげる。
　ノエルが元気よく腕まくりした。
「よし！　人数も増えてきたことですし、じゃんじゃん料理しちゃいましょう！」
　セシルとリーシャも手伝いを申し出てくる。

「お料理の最中でしたか？　よかったら、手伝わせてください」
「私もなにか……炒飯とか担々麺とか、東方系の家庭料理なら得意です」
　キーアが瞳を輝かせた。
「わあい！　みんなでがんばろ～!!」
　小さな手をにぎりしめて、号令をかけた。
「おー!!」
　ノエルとセシルが、ノリ良く合わせる。
　リーシャとソーニャは微笑んでいた。
　騒々しくなったせいかツァイトが起きて、階段をのぼっていく。
　ダドリーは皿を並べたり、食材が足りないと言われて買い出しに行ったり、息つく暇もないほど働いた。

　夕方——
「ただいま～」
　ロイドが帰ってきた。エリィとティオとランディも一緒だ。

そして、それぞれが驚きの声をあげた。
「パーティーの準備が終わってる⁉」
「いい匂いがするわね」
「……すごい料理がならんでます」
「おいおい、まるでパーティー会場みたいじゃねえか⁉」
料理をテーブルにならべていたダドリーは、咳払いをした。
「みたいではなく、ここはパーティーの会場だ。企画したのは、お前たちだろうが」
キーアが厨房から飛び出してきた。
「ロイドー‼」
「ただいま、キー……おいおい、手が……⁉」
幼い女の子の手は、なにやら白いものまみれになっていた。
しかし、ロイドに向かって突進する勢いは止まらない。
べちゃり！
「うっ……キーア……」
「あれ？」
ロイドの服に、べっとり白いものがついていた。
キーアのほうも鼻や口元に、べたべた白いものをつけている。

ぺろり、と舐め取った。
「えへへ～、甘～い♪」
「……キーア、これ生クリームか？」
「うん！」
服をクリームでべたべたにされたロイドだったが、優しくキーアの頭をなでる。
「今日は、みんなでパーティーの用意をする予定だったのに……ごめんな。こんなに遅くなっちゃって」
「ううん！　お仕事だからいいの。へいきだよ！」
けなげな様子に、ティオが涙ぐんで、キーアのことを抱きしめる。
「……キーア！」
「んあ？　ティオにもクリームついちゃうよ？」
「いいんです。そんなの気にしません」
「キーアちゃん、お料理とか大変だったでしょう？」
エリィの言葉に、キーアが首を横に振る。
「みんなが手伝ってくれたから！」
厨房から、ノエル、ソーニャ、リーシャ、セシルが顔を出した。
それぞれが、ロイドたちに、ねぎらいの言葉をかける。

ランディがテンションを跳ね上げた。
「うおっ⁉　リーシャちゃんに、セシルさん⁉　本物か⁉　それとも夢か幻か⁉」
ロイドたちは驚いたり、お礼を言ったりと、大変だった。

ようやく落ち着いた頃――
玄関から、ひとりの青年が入ってきた。
「やれやれ……大騒ぎだね。僕も仲間に入れてもらっていいのかな？」
「あっ、外で待ってたのか？　もちろん歓迎するよ」
ロイドが迎え入れたのは、中性的な美貌と、皮肉めいた笑みが印象的な青年だった。
ダドリーは一瞬、言葉を失ってしまう。どうにも驚くことの多い一日だ。
「…………ぬおっ⁉　貴様はワジ・ヘミスフィア⁉」
「やあ、お久しぶり。ダドリー捜査官」
ワジは不良グループ《テスタメンツ》のリーダーである。
「支援課は、一応、警察の組織だ。どうして、お前がここにいる？」
ティオが小さな声で「……一応は余分では？」とつっこんだ。
それはともかく、ワジが応じる。
「どうしてって、彼に誘われたからさ」

「む……どういうことだ、バニングス⁉」
ダドリーが睨むと、ロイドは当然という顔をしていた。
「支援要請を受けて探してた飼い犬なんですけど、旧市街のほうへ逃げてしまって……隠れるところが多いから、これは大変だと思ってたら、ワジが協力してくれたんです」
ワジが話を引き取る。
「旧市街は野犬同士も縄張りを持ってるからね。迷いこんだ犬の逃げこむ先は、それほど多くないのさ……その犬を説得したのは、ティオだけどね」
「……話せば、わかってくれました」
納得できるような、できないような話だ。
「協力してもらったのは、確かなのだろう……しかし、不良グループのリーダーを招くなど――」
「あの、ダドリー捜査官。誰であろうと、この場に来てくれた人を追い返すというのは、お祝いに水を差してしまうことになりませんか。それに彼なら、おかしなことはしないと思います」
（……もしかして、知り合いなのか？）
そう言ってかばったのは、意外にもノエル曹長だった。
ダドリーは納得しかねるが、そもそも、パーティーの主催者はロイドだ。

そして、なにも言わないということはソーニャ副司令までワジの同席に異論ないのだろう。

ため息をついた。

「まぁ、パーティーとは、こういうものか……」

ワジが肩をすくめる。

「ふふ……なかなか異色の取り合わせだね。捜査一課のエリートと、警備隊の人たちと、ウルスラ病院の看護師さんと、アルカンシェルのスターかい？　そのうえ、不良グループのリーダーまで呼ばれて、警察官のお誕生日会だなんて……こんな妙なパーティー、いくら僕でも経験ないよ」

楽しそうに笑っていた。

まったくもって非常識だ、とダドリーは思う。

ロイドはクリームまみれの服を着替えに自室へあがり、エリィとティオはキーアの顔をぬぐってあげる。

子どもとは思えないほどしっかり者に見えたキーアだが、世話されている姿は、まだまだお子様だ。

そして、予定通りの時刻に、本日の主役が姿を見せる。

特務支援課の課長、セルゲイが帰ってきた。

会議スペースの大きな長机には、いっぱい料理がならんでいる。

ホワイトボードには『HAPPY BIRTHDAY』の文字。

そして、笑顔で出迎えた面々は——支援課のロイド、エリィ、ティオ、ランディ、キーアと、警備隊のノエル曹長、ソーニャ副司令。劇団アルカンシェルのリーシャ・マオ。ウルスラ病院の看護師のセシル。さらに、テスタメンツのワジだ。

もちろん、捜査一課のダドリーもいる。

いつの間にか、ツァイトも戻ってきていた。

タバコをくわえたまま、セルゲイが唖然として、つぶやく。

「……なんだ、こりゃあ……？」

「かちょー、お誕生日おめでとー‼」

キーアが最初に、お祝いの言葉を投げかけた。

みんなも口々にお祝いする。

セルゲイが目を白黒させていた。

ソーニャが、グラスを手渡す。
「乾杯くらいしたら？」
「あ、ああ……」
みんなが言葉を待っていた。セルゲイが困ったような笑みを浮かべる。
「クク……数日前から、なにかやってるとは思ってたが……やれやれ、この忙しいのに、元気なやつらだな」
ロイドたちが照れ笑いで返した。
セルゲイがグラスを掲げる。
「誕生日を祝うような歳でもねえが……ま、礼は言っておこう」
みんなで乾杯した。
ロイドたちはノンアルコールにしておく。ランディなどは残念そうだったが。
たくさんならべられている料理に、セルゲイが感嘆をあげた。
「ほう、こいつはすごいな……誰が作ったんだ？」
キーアが説明する。
「んとね、その匠風オムライスはノエル！　こっちの龍老炒飯がリーシャで、あっちの煮出し魚鍋はソーニャだよ！」
「……煮出し魚鍋か」



セルゲイは唇の端をゆるめ、小皿に分けて、煮出し魚を口にした。
「……懐かしい味だな」
「ふふ、本当に覚えてるのかしら？」
ソーニャが苦笑していた。
ワジがテーブルの端に、酒瓶とグラスをならべる。
「人が多いし、僕はバーテンの真似事でもしようかな」
「ちょっと、ワジ君、ここ警察署だよ⁉」
「わきまえてるよ、ノエル。ノンアルコール・カクテルも作れるさ。これなんかオススメだよ」
手際よく作られたのは、《ベルベリージュース》だった。
アルコールは使われていない様子だから、と飲んでみて、ノエルは目を丸くする。
「す、すごい！　美味しい……とっても甘いのに、すっきりしてて」
「ふふ……そうだろ？」
キーアが、ロイドに声をかける。
「ねえ、そろそろ、ケーキを出そうよ！」
「えっ⁉　ケーキまで、ちゃんと作れたのか⁉」
「えへへっ！　セシルが手伝ってくれたもん。キーアもがんばってかわいくしたんだよ」
「そいつは楽しみだな。よし、丁寧に運んでこよう」

「俺も手伝うぜ」
ロイドとランディで厨房からテーブル中央へ誕生日ケーキを運んだ。
キーアが書いたというメッセージ入りの手作りケーキを前にして、セルゲイが目頭を押さえる。
「クク……まったく、おまえたちは……」
「すごいです。プロ顔負けですよね」
リーシャが褒めると、セシルが頬を赤くした。
「前に失敗してから、何度か作ってみたから……少なくとも、味のほうは普通だと思うわ」
「普通じゃない味のケーキを作っちゃったんですか……？」
「甘くないケーキになっちゃったことがあるの」
セシルが小さく舌を出す。
「そういや、そんなこともあったな」
昔のことを思い出したらしく、セルゲイが苦笑していた。
玄関がノックされる。
ダドリーは振り向いた。
「むっ……バニングス、まだ来客があるのか？」
「え？　いえ、俺の知ってるかぎり、これで全員だと思いますけど」

「では、誰だ？」
　ダドリーが玄関扉を開けると、マイクを持ったグレイス記者と、カメラを構えたレインズが入ってきた。
「こんばんはー‼　クロスベル通信（タイムズ）です！」
「帰れ」
「うわっ⁉　ダドリー捜査官……どうして支援課に⁉　まさか、出向ですか？」
「わ、私が支援課に出向するものか！　今は記者など入れるわけにはいかんのだ」
「えぇー⁉」
「まったく、どこから嗅ぎつけてきた？」
「ふっふっふっ……記者としての直感が、なにかあると……こう、ピュキーンと」
「とにかく帰れ」
「うあ～、わかりました！　じゃあ、記事にしませんから！　その交換条件でどうですか⁉」
「つまり……追い返したら記事にするわけか……その約束、守ってもらうぞ？」
「もっちろん！」
　ずいずいと奥に入ってくる。
「うふふん♪　あ、セルゲイ課長、お誕生日、おめでとうございます！　つまらないもの

ですけど、これ」
「お、おう……そっちは、最近、大活躍じゃねえか？」
「いや～、新市長体制になって、あれこれ大激変ですから書くことが多くて多くて」
「だろうな。それなのに、こんな小さなことに時間を使っていいのか？」
「ん～、なにがあっても、支援課からは目を離さないほうがいい気がするんですよね……ま、私の記者としての勘ですけど」
「ククク……期待に添えるといいがな」
「うふふふっ……」
　記者魂の宿った瞳が、めらめらと燃えていた。
　盛りあがっているグレイス記者にカメラマンのレインズが耳打ちする。
「あの～、グレイス先輩……」
「なに、レインズ君？」
「これ記事にしないって約束なら、写真は撮らないほうがいいですよね？」
「うーん、たしかに、ここで撮影すんのは、ちょっとね……でも、せっかく来たのになにもしないんじゃ、甲斐がないでしょ？」
「いや、僕はべつに……」
「そうだ！　集合写真を撮りましょうよ！　プリントしたら感光クオーツごとセルゲイ課

長に渡すわ。それでどう⁉」
「ククク……まぁ、俺が決めることじゃねえな」
「どう⁉」
　今度はダドリーが尋ねられた。
　セルゲイが預かるのなら、文句はないが――
「やはり、ここはお前が決めるべきだろう、バニングス」
「俺ですか⁉」
　すこし考えてから、ロイドがうなずく。
「……うん……撮られたくない事情のある人は映らなければいいんだし、撮ってもらおう。こんなふうに集まれるのは、とても貴重なことだと思うから」
　エリィとティオも同じ気持ちのようだ。
「大切な思い出だもの、残せたらうれしいわ」
「……キーアが、がんばってくれたことも記録されますね」
「えへへっ！　写真とるの⁉　やったあ！」
　キーアが両手を挙げた。
　他の参加者たちもかまわないとのことで、みんなしてケーキの前にならんだ。
　レインズが、どこから持ってきたか脚立にのぼり、角度をつける。

「グレイス先輩、レフ板、もうちょい高くお願いします」
「ぐぐぐ……もう、これ以上は背が伸びないっての！」
「がんばってください。あきらめないのが記者魂だって、いつもグレイス先輩が言ってるじゃありませんか」
「うぐ～」
　撮影になった途端、上下の立場が逆転して、すっかりアシスタント扱いのグレイスだった。
　レインズがカメラを構える。
「いいですか、撮りますよ～、3、2、1、はい。ありがとうございました！」
　撮影が終わり、ほわっとした空気になる。
　そのとき、ロイドのエニグマに着信があった。



　懐から取り出して、カバーを開く。
「やあ、フラン……え？　なんだって⁉　そんなことになったら……くっ‼」
　ロイドの様子から、大変な事態が起きたことは、すぐ推測できた。

「ああ……わかった……すぐ現場に向かう！」
ロイドが通話を終える。
ダドリーはスーツの上着を羽織り、装備（インペリアル）を確認した。
「バニングス、今度こそ事件のようだな⁉」
「はい！　ジオフロントの扉が故障して開いたままになり、住宅街に多数の魔獣が現れているそうです！」
「なんだと⁉　捜査一課としても放っておけない事態だ。よし、特務支援課、合同強制捜査だ！　私についてこい！」
「了解‼」
「市民の避難もしないと」
エリィの言葉に、ティオがうなずく。
「……逃げ遅れた人の探索（サーチ）は任せてください」
「よっしゃ！　とっとと片付けようぜ‼」
ランディがスタンハルバードを肩にかついだ。
ノエル曹長が進み出る。
「あたしも協力します！　装備は最低限しかありませんが、市民の誘導ならできますから！」

「そうね……警備隊の軽装甲車なら、ジオフロントの魔獣にも対抗できると思うわ」
ソーニャ副司令が直々に承諾してくれた。
ダドリーはうなずく。
「願ってもない！　協力、感謝する！」
こんなときだというのに、ワジが動じることなくカクテルを作っていた。
「やれやれ……相変わらず落ち着かないね。まぁ、僕は帰りを待つことにするよ。まさか、これでお開きじゃないだろ？」
ロイドが笑みをこぼす。
「もちろん、できるだけ早く退治してくるよ……支援課ビルには、課長もツァイトもいるから大丈夫だと思うけど、セシル姉やリーシャたちを頼む」
「ja（ヤー）．他ならぬ君の頼みだ、引き受けよう」
セシルとリーシャが、心配そうに見つめていた。
「気をつけてね、ロイド。ケガしないで帰ってきて」
「ロイドさん、お気をつけて……」
「ありがとう！」
それから、ロイドはキーアの頭をなでた。
「ごめんな……ちょっと行ってくる」

「うん。がんばってね、ロイド！」
出動に際しても、セルゲイは黙って見ているだけだった。
なにも命令しない。
ただ、視線を交わして、互いにうなずく。
信頼しているのだとわかる。
これが支援課の流儀なのか——とダドリーは思った。
ロイドたちは自分で考え、自分が信じる道を全力で進でいく。
ダドリーのやり方とは違う。
しかし、彼らを認める気持ちは以前よりも強くなっていた。
ロイドが扉を開ける。
「さあ行こう！　みんな！」
仲間たちと表に出るロイドの後ろ姿に——ダドリーは、彼の兄ガイ・バニングスを重ねる。
「ふっ……いや、まだまだ遠いな。しっかりと私が指導してやらねば」
夜のとばりに包まれた街を守るため。
事件の現場へと走りだすのだった。

『英雄伝説 黎の軌跡 SUPER ULTIMATE』

レビュー

ひとつの作品から人気曲を厳選し、新アレンジ&新録音で提供する《SUPER ULTIMATE》シリーズ。振り返ってみると第1弾は『イースVIII』、第2弾は『イースXI』と来ていたので、今回が《軌跡》シリーズというのは多少意外であると同時に、満を持してという気概を感じさせるところでもあるだろう。シリーズの新展開を祝しつつ、今回の聴きどころをお伝えしたい。Text by hally(VORC)

「深化」と「変化」。ふたつの側面から渾身のアレンジに挑んだ第3弾！

「渾身・究極のスーパーフルアレンジ」というのが《SUPER ULTIMATE》の売り文句だが、音楽性は毎回かなり異なっており、そこに関してはアレンジャーの個性に委ねられるところが大きいようだ。第1弾では現在の日本ファルコムが誇る2大アレンジャー・真我光生氏と神藤由東大氏が分担して編曲を手掛けた。ここではヴォーカルとインストが半々、スタイルもイージーリスニングからダンスミュージックまで多彩という、いわば「なんでもあり」の方向性が示されている。第2弾はアレンジャーが神藤氏ひとりとなり、音楽性の面でもインスト生演奏のみ、作風もクラシカル～ロック系で統一されるという、ぐっと絞り込まれた一本気な内容になった。今回の『黎の軌跡』は真我氏をメインアレンジャーに据え、神藤氏はお休み。再び第1弾に近いバラエティ豊なサウンドを展開する（プレイヤーの陣容は第1弾よりも『Falcomアクースティックス2』に近いが）。

あまりに「なんでもあり」だと肌に合わないかも……？　そんな風に思われるリスナーもいるかもしれないが、心配は無用だ。大半は原曲重視のアレンジだし、全体を貫く骨太さと重量感も、ファルコムファンのツボをしっかり押さえている。これまでのシリーズを吟味した上で、良いところがしっかり集約されているといえるだろう。

アルバムはパンチを効かせた「怪盗グリムキャッツ」テーマのヴォーカルアレンジで幕を開ける。歌うは《SUPER ULTIMATE》第1弾でも存在感をみせつけた末廣優里。今回もパワフルな歌唱で初手からがっちり掴んでくれる。その後しばらくはインスト曲となるが、2曲目「光芒のレゾナナンス」と3曲目「Unmitigated Evil」が好対照をなしているのは興味深い。どちらも原曲は胸熱のシンフォニックロックだが、前者はがらりと雰囲気を変えたEDM調のダンスアレンジ、後者はロックとしての密度を高めたFalcom jdk BAND的正統派アレンジとなっているのだ。この振れ幅は、本盤のあり方を端的に示している。「深化」と「変化」を両軸としつつ、どちらにも偏りすぎないようしっかり配慮されているのである。この視点からいえば、4曲目「Marginal Crisis」、5曲目「アークライド解決事務所」はどちらも「深化」の側だ。前者はシンフォニーとして、後者はジャズとして、それぞれより純度を高めている。ちなみに5曲目のみキーボード担当のgaki　a2がアレンジを手掛けている。

中盤からは人気投票の上位曲が目白押しだ。トップに輝いた主題歌「名もなき悪夢の果て」が6曲目にしてついに登場するが、驚かされるのはボーカリストの人選だろう。原曲の佐坂めぐみに代わり、《スーパー戦隊シリーズ》主題歌ユニットProject.Rの一員である吉田達彦が熱唱しているのである。もちろん日本ファルコム作品には初参戦。いやが上にも高まるキレの良さとアグレッシヴさで、ヒロイックな疾走感をよりいっそうまくし立てる。

続く「虚空と空と　その狭間に生きる者」は、本盤唯一のしっとり系ヴォーカル曲。アンニュイなアレンジに載せて佐坂が歌う。同じく佐坂ヴォーカルの9曲目「ナイツ・オブ・アステリア」はこれと正反対で、原曲がメロウな叙情曲なのに対し、今回のアレンジはド直球のロックとなっている。この2曲も味わい深い対比をなしている。

終盤は原曲のイメージを力強く昇華させた「黎（あおぐろ）き狭間の中で」を経て、「Diabolic Howl」へ。この曲ではEDMとハードロックを巧みに織り交ぜており、「深化」と「変化」の両側面を一体化させた圧巻の聴き応えでフィナーレを飾る。すべてを聴き終えたとき、今回の《SUPER ULTIMATE》が目指した理想は、自然に理解されるところとなるだろう。



■商品情報
英雄伝説 黎の軌跡 SUPER ULTIMATE
●発売日
2022年12月22日
●価格（税抜）
【CD盤】3,080円（税込）
【DL版】[アルバム] 2,444円（税込）／[単曲] 254円（税込）
【ハイレゾ音源版】[アルバム] 3,055円（税込）／[単曲] 356円（税込）
※CD盤は、音楽CDフォーマットに合わせてCD化した商品となります。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.142

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!! オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント！　※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.142プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から１つずつ）
3：アンケート①『軌跡』シリーズで次回作に期待することは？
　アンケート②ファルコムの音楽CDを最近購入/DLしましたか？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

応募締め切り　12月23日（金）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。